



Red Hat 認定クラウドとサービスプロバイダーの認定 1.0

Red Hat 認定クラウドおよびサービスプロバイダー認定のワークフロー

Red Hat Certified Cloud and Service Provider 1.0 向け

Red Hat 認定クラウドとサービスプロバイダーの認定 1.0 Red Hat 認定クラウドおよびサービスプロバイダー認定のワークフロー

Red Hat Certified Cloud and Service Provider 1.0 向け

法律上の通知

Copyright © 2017 Red Hat, Inc.

The text of and illustrations in this document are licensed by Red Hat under a Creative Commons Attribution–Share Alike 3.0 Unported license ("CC-BY-SA"). An explanation of CC-BY-SA is available at

<http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/>

. In accordance with CC-BY-SA, if you distribute this document or an adaptation of it, you must provide the URL for the original version.

Red Hat, as the licensor of this document, waives the right to enforce, and agrees not to assert, Section 4d of CC-BY-SA to the fullest extent permitted by applicable law.

Red Hat, Red Hat Enterprise Linux, the Shadowman logo, JBoss, OpenShift, Fedora, the Infinity logo, and RHCE are trademarks of Red Hat, Inc., registered in the United States and other countries.

Linux ® is the registered trademark of Linus Torvalds in the United States and other countries.

Java ® is a registered trademark of Oracle and/or its affiliates.

XFS ® is a trademark of Silicon Graphics International Corp. or its subsidiaries in the United States and/or other countries.

MySQL ® is a registered trademark of MySQL AB in the United States, the European Union and other countries.

Node.js ® is an official trademark of Joyent. Red Hat Software Collections is not formally related to or endorsed by the official Joyent Node.js open source or commercial project.

The OpenStack ® Word Mark and OpenStack logo are either registered trademarks/service marks or trademarks/service marks of the OpenStack Foundation, in the United States and other countries and are used with the OpenStack Foundation's permission. We are not affiliated with, endorsed or sponsored by the OpenStack Foundation, or the OpenStack community.

All other trademarks are the property of their respective owners.

概要

本ガイドでは、Red Hat Enterprise Linux ベースの Infrastructure-as-a-Service (IaaS) を提供する CCSP パートナー向けの認定ワークフローについて説明します。

目次

第1章 はじめに	3
1.1. 対象読者	3
第2章 フィードバックの提供とヘルプ	4
2.1. フィードバックの提供	4
2.2. サポートケースの作成	4
第3章 前提条件	5
3.1. プログラムおよび製品要件	5
3.1.1. プログラムメンバーシップ、アカウント、およびエンタイトルメント	5
3.1.2. イメージの要件	5
3.2. テスト環境の準備	6
3.2.1. テスト環境の概要	6
3.2.2. Image-under-Test の準備	7
3.2.3. テストサーバーの準備	8
第4章 認定ワークフロー	10
4.1. 認定ワークフローの概要	10
4.2. 認定リクエストの作成	10
4.3. 認定テストの実行	11
4.3.1. 概要	11
4.3.2. Red Hat Certification WUI を使用した認定テストの実行	11
4.3.3. Red Hat Certification CLI を使用した認定テストの実行	12
4.4. テストログの表示およびレビュー用にテストログを提出	13
4.4.1. Red Hat Certification WUI を使用したテストログの表示およびレビュー用にテストログを提出	13
4.4.2. Red Hat Certification CLI を使用したテストログの表示およびレビュー用にテストログを提出	14
4.5. 認定のレビューおよびポスティング	15
第5章 再認定ワークフロー	16
5.1. 再認定	16
第6章 詳細情報	17
6.1. 参考資料	17

第1章 はじめに

1.1. 対象読者

本ガイドでは、Infrastructure-as-a-Service (IaaS) を認定する Red Hat CCSP (認定クラウドおよびサービスプロバイダー) パートナー向けの認定ワークフローの概要を説明します。認定ツールおよび方法は、Red Hat Enterprise Linux 上でビルドされたインフラストラクチャークラウドイメージに対応しています。

認定プロセスの開始前に、以下のドキュメントの閲覧が推奨されます。

- [Red Hat Connect for Business Partners](#) にある Red Hat Certified Cloud and Service Provider Program Guide (CCSP Program Guide)。イメージ認定のプログラム要件について説明しています。
- Red Hat Certified Cloud and Service Provider [クラウドイメージ認定ポリシーガイド](#)。イメージ認定の要件およびポリシーを説明しています。

また、本ガイドのプロセスを開始する前に、読者が Red Hat 認定エンジニアか同等の経験があることをおすすめしています。

第2章 フィードバックの提供とヘルプ

2.1. フィードバックの提供

Red Hat 製品の認定プロセス中に問題が発生した場合は、Red Hat 認定ツールセットもしくは本ガイドに記載の手順にしたがって [Red Hat カスタマーポータル](#) に移動してください。Red Hat 製品のドキュメンテーションやソリューション、技術アーティクルにアクセスできます。

また、以下のインスタンスでケースを開くこともできます。

- 認定プロセスにおける問題の報告やそれに関するヘルプの要請
- フィードバックの提供および認定ツールセット & ドキュメンテーションの機能拡張の要請
- 製品またはアプリケーションの認定を行なっている Red Hat 製品についてのアシスタンスのリクエスト



注記

Red Hat 製品についてのアシスタンスを受けるには、必須の製品エンタイトルメントやサブスクリプションが必要があります。これらは、パートナープログラムや認定プログラムのメンバーシップとは別個のものである場合があります。

2.2. サポートケースの作成

サポートケースを作成するには、[カスタマーポータルでサポートケースを開いたり管理したりする](#) を参照してください。

以下のフィールドに注意してサポートケースフォームを記入します。

- 製品フィールドで **Red Hat Enterprise Linux** を選択します。
- 製品バージョン フィールドで、製品またはアプリケーションの認定を行なっている Red Hat 製品のバージョンを選択します。
- 問題の概要 フィールドで、以下の形式を使用して問題を記述するかフィードバックを記入します。

{Partner Certification} (問題の概要またはフィードバック)

- (問題の概要またはフィードバック) の部分に、認定プロセスもしくは Red Hat 製品での問題、もしくは認定ツールセットまたはドキュメンテーションに関するフィードバックを記入します。
例: {Partner Certification} Red Hat 認定アプリケーションを使用した認定テスト結果の提出中にエラーが発生。



重要

ケースが適切なグループに割り当てられるために、問題の記述では **{Partner Certification}** タグを記入することが必須になります。

認定に関連するケースはすべて [サービスレベルアグリーメント重大度 3](#) を使用することになり、応答時間は 1 営業日となります。

第3章 前提条件

3.1. プログラムおよび製品要件

3.1.1. プログラムメンバーシップ、アカウント、およびエンタイトルメント

クラウドイメージの認定には、Certified Cloud and Service Provider (CCSP) プログラムのアクティブなメンバーシップが必要になります。メンバーでない場合は、[Red Hat Connect for Business Partners](#) に移動してメンバーシップの申し込み方法を確認してください。

CCSP プログラムの登録プロセス中に、Red Hat シングルサインオン (SSO) アカウントが作成されます。この SSO アカウントとその認証情報は、Red Hat 製品、認定ツールセット、およびその他の Red Hat アセットにアクセスするための認証プロセスで使用されることになります。

CCSP プログラムのメンバーシップと SSO アカウントを取得したら、このアカウントに認証情報の権限を与える必要があります。これを実行するには、ケースを作成し、**問題の概要** フィールドに以下の情報を入力します。

問題の概要:

- パートナー認定: **{Partner Name}** での **{Red Hat SSO Username}** 向け CCSP 認定アクセスオプションで **期待される動作はどのようなものですか?** フィールドに以下の情報を記入すると、Red Hat 担当者がこのケースで最初の認定リクエストを作成します。
- クラウド名もしくはクラウドサービスオファリングの名前
- クラウドもしくはクラウドサービスオファリングの公開カタログ URL/公開 URL
- サポート地域 (グローバル/オーストラリア & ニュージーランド/ASEAN/EMEA/日本/LATAM/北米/公的機関)
- サポート言語
- 取得したサードパーティー認定 (例: FedRAMP、Systrust、SAS 70、PCI、その他の非 NA 認定など)
- 最初の認定を希望する RHEL バージョン (6.x または 7.x)

添付ファイル:

パートナーブランドロゴの添付 (PNG 256x256)

3.1.2. イメージの要件

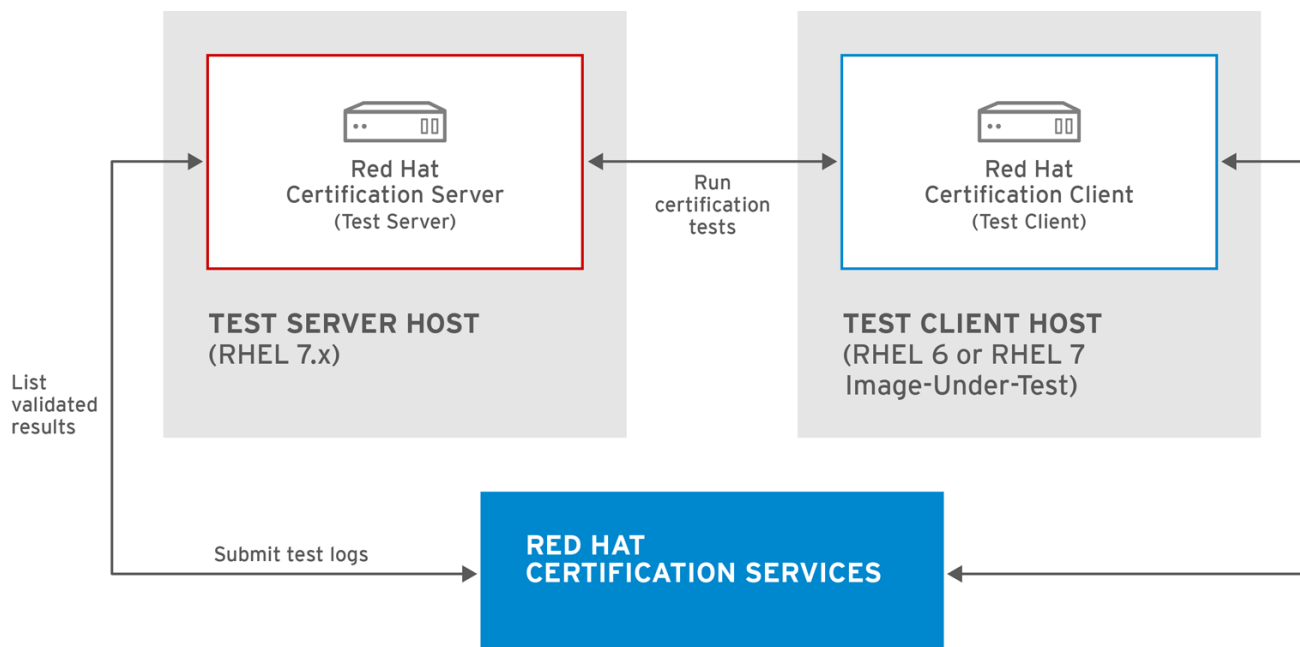
認定クラウドおよびサービスプロバイダー (Certified Cloud and Service Provider: CCSP) は、カタログで公開されるイメージを認定する必要があります。この認定プロセスには、Red Hat のお客様に対し、各種のクラウドプロバイダー間での一貫したエクスペリエンスと共に、最高レベルのサポートおよび優れたセキュリティ対策を利用できることを保証をするための一連のテストが含まれます。

イメージは、CCSP Program Guide および Technical and Operations requirements Guide に記載の要件すべてを満たす必要があります。これらのガイドは、[Red Hat Connect for Business Partners](#) から入手可能です。認定に関する固有のポリシーと要件は、[クラウドイメージ認定ポリシーガイド](#) に記載されています。

3.2. テスト環境の準備

3.2.1. テスト環境の概要

以下の図では、Red Hat Certification web UI を使用した RHEL 6 または RHEL 7 (該当するいずれか) の image-under-test のテストに必要な環境設定を示しています。この図には、(色付きの) 各ホストにインストールする必要のある認定パッケージが含まれています。



*Image-Under-Test / Test Client refers to the image undergoing certification.

PACKAGES TO BE INSTALLED:

☐ redhat-certification ☐ redhat-certification ☐ redhat-certification-cloud ☐ redhat-certification-backend

RHCS_426033_1116

Red Hat Certification に実装されるプライマリーアプリケーションは、クライアントサーバーアプリケーションです。別のホスト (テストサーバー) で Red Hat Certification の web ユーザーインターフェースを起動し、この UI を使用してクラウドの image-under-test (テストクライアント) で認定テストを実行できます。テストサーバーは image-under-test またはテストクライアントと通信して、image-under-test/テストクライアントホストで認定テストを開始します。Red Hat Certification web ユーザーインターフェースを使用すると、以下を実行できます。

- 新しい認定リクエストの生成
- ログの提出
- 認定チームへの連絡

必須ではないものの、個別のテストサーバーを設定し、image-under-test/テストクライアント上で認定テストを実行することが推奨されます。こうすることで、単一のホスト/テストサーバーから複数のイメージ/テストクライアントのテストが可能になり、テストサーバー上で詳細な検証レポートが提供され、リソースが制約されないようにします。検証されたテスト結果/レポートは Red Hat Certification サーバーにも保存され、Red Hat Certification の web ユーザーインターフェース で閲覧することもできます。データの送信後、必要な場合は Red Hat Certification の web ユーザーインターフェースを継続して使用し、認定チームと連絡を取ることもできます。



注記

Red Hat Certification web UI にアクセスできない場合や image-under-test にインターネットアクセスがない場合は、Red Hat Certification コマンドラインインターフェイスを使用することができます。Red Hat では、今回のリリースの CCSP 認定でドキュメント化されているように、Red Hat Certification CLI の使用をサポートしています。

3.2.2. Image-under-Test の準備

image-under-test で必要となるソフトウェアパッケージは、Red Hat カスタマーポータルから手動でインストールする必要があります。こうすることで、image-under-test のデフォルトのコンテンツへの修正が最小限に抑えられます。



注記

image-under-test がインターネットに接続できない場合、インターネットに接続している RHEL 6/7 ホスト (どちらか該当する方) に必要なソフトウェアパッケージをダウンロードし、image-under-test に RPM ファイルを送信することが推奨されます。image-under-test に必要なパッケージをインストールしたら、Red Hat Certification CLI を使用して認定テストを実行し、残りのプロセスを完成することが推奨されます。

Red Hat カスタマーポータルから必要なソフトウェアパッケージをダウンロードして手動でインストールするには、以下のステップを実行します。

1. Red Hat カスタマーポータルにログインし、[Red Hat Certification ダウンロードページ](#) を開きます。
2. バージョン から該当する RHEL のバージョンを選択します。アーキテクチャー から該当するアーキテクチャーを選択します。

Product Variant:

Red Hat Certification (for RHEL Server) ▼

Version: Architecture:

7 ▼

x86_64 ▼

3. **redhat-certification-backend** および **redhat-certification-cloud** パッケージの横にある **最新版のダウンロード** ボタンをクリックします。

redhat-certification-backend	Red Hat Hardware Test Suite Backend	Download Latest ↗
redhat-certification-cloud	Client-side tests for Certified Cloud Provider Programme	Download Latest ↗

4. ダウンロードした RPM ファイル/パッケージを image-under-test にインストールします。
5. 以下のコマンドを実行して、Red Hat Certification back-end サーバーと image-under-test 上のサーバーリスナープロセスを起動します。

```
# rhcertd start
```

結果

認定テスト用に image-under-test の準備ができました。

3.2.3. テストサーバーの準備

テストサーバーで必要となるソフトウェアパッケージは、Red Hat web ユーザーインターフェースまたは Satellite 経由で Red Hat Certification チャンネルをサブスクライブしてインストールする必要があります。こうすることで、必要な依存関係が自動的にインストールされます。

テストサーバーに必要なソフトウェアパッケージをインストールするには、以下のステップを実行します。

1. テストサーバーホストとして機能することが可能な永続的 RHEL 7 ホストを選択します。選択するホストは、認定チャンネルを含む Red Hat サービスにアクセスでき、RHEL 6 または RHEL 7 の image-under-test と同様のネットワークを使用する必要があります。
2. 以下のコマンドを実行して、Red Hat サブスクリプション管理を使用してホストを登録します。

```
# subscription-manager register
```

登録には、ご自身の RHN 認証情報を使用します。

3. 以下のコマンドを実行して、システムで利用可能なサブスクリプション一覧を表示します。

```
# subscription-manager list --available
```

利用可能なサブスクリプション一覧から **Red Hat Certification (for RHEL Server)** リポジトリを提供するサブスクリプションを検索します。サブスクリプションとそのプール ID を書き留めます。



重要

Red Hat Certification (for RHEL Server) リポジトリは認定パッケージを提供します。

4. 以下のコマンドを実行して、**Red Hat Certification (for RHEL Server)** リポジトリを提供するサブスクリプションをシステムにアタッチします。

```
# subscription-manager attach --pool=[pool_ID]
```

Red Hat Certification (for RHEL Server) リポジトリを提供するサブスクリプションのプール Pool ID で **[pool_ID]** を置き換えます。

subscription-manager attach --pool コマンドで必要なサブスクリプションをシステムにアタッチするには、正しいプール ID が必須になります。

ヒント

システムにアタッチされているサブスクリプションを確認するには、# **subscription-manager list --consumed** コマンドを実行します。Red Hat Certification (for RHEL Server) リポジトリを提供するサブスクリプションがシステムにアタッチされていることを確認してください。

5. 以下のコマンドを実行して、Red Hat Certification チャンネルをサブスクライブします。

```
# subscription-manager repos --enable=[rhel-7-server-cert-rpms]
```

```
# yum install redhat-certification
```

6. 以下のコマンドを実行して、Apache、Red Hat Certification バックエンドサーバー、およびサーバーリスナープロセスを開始します。

```
# systemctl start httpd  
# rhcertd start
```

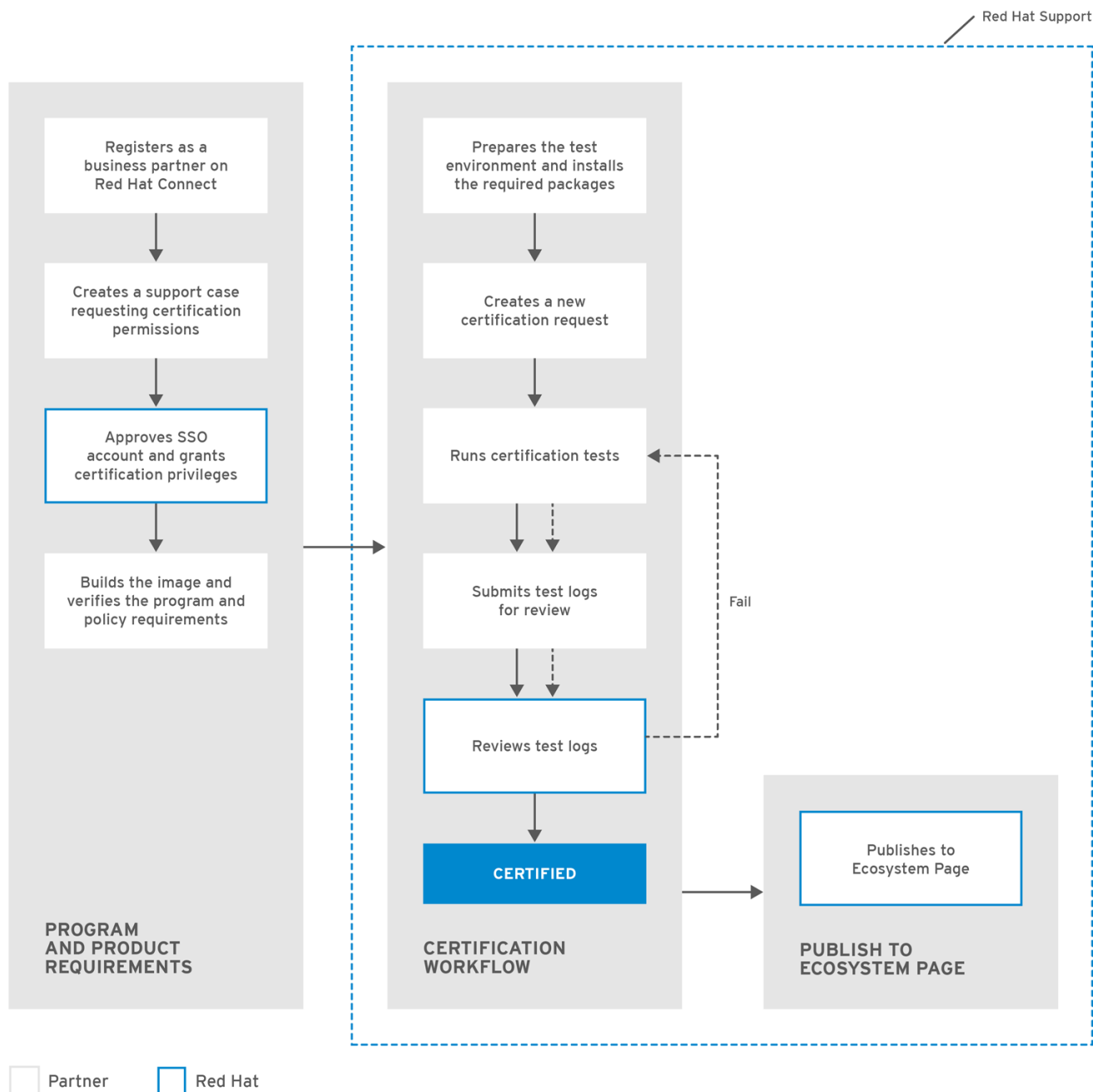
結果

テストサーバー (RHEL 7.x host) の準備ができました。**redhat-certification** パッケージは Red Hat Certification web UI を提供し、これは image-under-test/テストクライアント上での認定テストの実行に使用できます。

第4章 認定ワークフロー

4.1. 認定ワークフローの概要

以下の図は、認定クラウドおよびサービスプロバイダー (Certified Cloud and Service Provider: CCSP) の認定ワークフローと、Red Hat およびパートナーの役割や責任を表しています。



RHCS_435803_0117

4.2. 認定リクエストの作成

新規の認定リクエストを作成するには、以下のステップにしたがいます。

テストサーバーのブラウザで <http://<machine-IP>> にアクセスし、**Red Hat Certification web ユーザーインターフェース** を起動します。

1. **Username** と **Password** フィールドに認定向けに有効にした **Red Hat アカウントの認証情報**を入力します。**Login** をクリックします。
2. **New Certification** ボタンをクリックし、**Choose the Red Hat Certification web** ページに移動します。
3. **Product** ドロップダウンリストから **Red Hat Enterprise Linux** を選択します。**Version** と **Platform** の値は自動的に生成されますが、必要に応じてバージョン、プラットフォーム、および RHEL バージョンを選択できます。**Next** をクリックし、**Choose the product to be certified web** ページに移動します。
4. ドロップダウンリストから **Vendor**、**Make**、および **Name** を選択します。**Next** をクリックします。
5. リクエストした Cloud 認定の通知が表示されます。



注記

Red Hat Certification web ユーザーインターフェースで **Red Hat Certified Cloud Provider** オプションが見当たらない場合は、認定向けに有効にしたアカウントでログインしていることと、認定の前提条件をすべて完了していることを確認してください。さらにヘルプが必要な場合は、[サポートケースの作成](#) を参照してください。

4.3. 認定テストの実行

4.3.1. 概要

認定テストは、(ローカルのテストサーバー上で Red Hat Certification アプリケーションを起動して) Red Hat Certification web UI を使用するか、Red Hat Certification CLI 使用して image-under-test で実行できます。

4.3.2. Red Hat Certification WUI を使用した認定テストの実行

Red Hat Certification web ユーザーインターフェースを使用して image-under-test 上で認定テストを実行するには、テストサーバーで以下のステップを実行します。

1. ブラウザーで `http://machine-IP` にアクセスし、Red Hat Certification web ユーザーインターフェースを起動します。**machine-IP** はご使用のマシンの IP アドレスまたはホスト名に置き換えてください。
2. **User Name** と **Password** フィールドに認定向けに有効にした Red Hat アカウントの認証情報を入力します。**Log In** をクリックします。
3. Red Hat Certification ホームページで **Server settings** タブをクリックします。



4. **Register a System** フィールドに image-under-test のホスト名または IP アドレスを記入して、**Add** をクリックします。
5. Red Hat Certification ホームページで既存の認定エントリーをクリックします。

Program	Certification
Cloud	Red Hat Enterprise Linux 7.2 - x86_64

進捗ページが開き、認定テストスイートで利用可能な認定テストとこれまでの実行の進捗状況(ある場合)が表示されます。

6. **Testing** リンクをクリックしてテストページを開きます。
7. テストページで **Add System** をクリックします。
8. Select Host ページで image-under-test のホスト/ホスト名を選択し、**Test** をクリックします。テストページが開き、image-under-test の認定テストプランが作成されます。認定テストプランの実行が完了し、テストプランの準備ができると、ステータスコラムに「Finished test run」ステータスと **Continue Testing** ボタンが表示されます。

localhost.localdomain

Finished test run 0

Continue Testing

9. **Continue Testing** をクリックします。
10. Run テーブルから表示されているテストすべてを選択し、**Run Selected** をクリックします。

Run:	Run Selected	<input type="checkbox"/> debug
rhcert/self_check	<input checked="" type="checkbox"/> pre-run	
cloud/supportable	<input checked="" type="checkbox"/> interactive	
cloud/configuration	<input checked="" type="checkbox"/> interactive	
cloud/security	<input checked="" type="checkbox"/>	



注記

認定向けのテストプラン作成後に表示されるテストはすべて、実行する必要があります。特定のテストを選択して実行する方法は、Red Hat Review チームがデバッグ目的で推奨した場合にのみ、実行してください。

結果

認定テストが image-under-test で実行されます。認定テスト実行のステータスは、Testing ページに表示されます。**interactive** のラベルがあるテストは、ランタイム中にユーザーからのフィードバックを必要とします。Testing ページの **status** コラムには、質問とテスト中の入力のためのテキストボックスが表示されます。テストは、回答が提供されて **Submit** がクリックされるまで、一時停止します。

テスト実行が完了すると、各種テストからのテストログが **.xml.gz** 形式の単一ログファイルに保存されます。

4.3.3. Red Hat Certification CLI を使用した認定テストの実行

Red Hat Certification CLI を使用した認定テストを実行するには、以下のコマンドを image-under-test で実行します。


```
# rhcert-cli
```

特定のテストでは、(CLI で) ランタイム中にユーザーからのフィードバックが必要になります。回答を提供して **Enter** をクリックするまで、テストは一時停止します。以下のスクリーンショットが例になります。

```
Needs Review: Non-Red Hat packages are installed. Please describe the need for these packages:
```



注記

すべてのテストを実行することが推奨されます。

テスト実行後には、テストのログ/結果が自動的に単一の **.xml.gz** ファイルに収集されます。このテスト結果/ログを保存するには、`image-under-test` で以下のコマンドを実行します。

```
# rhcert-cli save --server [hostname/IP address of LTS]
```

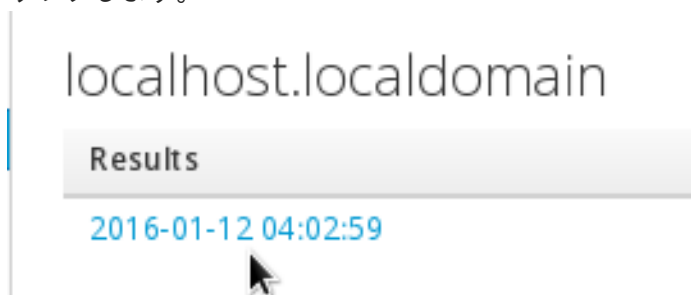
`image-under-test` に保存せずに、テスト結果/ログを直接検証のために提出することも可能です。

4.4. テストログの表示およびレビュー用にテストログを提出

4.4.1. Red Hat Certification WUI を使用したテストログの表示およびレビュー用にテストログを提出

Red Hat Certification web ユーザーインターフェース (テストサーバーで起動する) を使用してテストログを表示および提出するには、以下のステップを実行します。以下の手順では、テスト結果/ログファイルを提出、保存、ダウンロード、削除するステップについても説明しています。ただし、検証のためにテストログファイルを Red Hat Certification サービスに提出することは必須となります。

1. テストサーバーで Red Hat Certification web ユーザーインターフェースを起動します。
2. Red Hat Certification ホームページで Products Table から製品名/`image-under-test` をクリックします。
3. Certification ページで関連する認定エントリーをクリックします。
4. **Testing** リンクをクリックしてテストページを開きます。
5. Testing ページで、表示する結果に対応している関連ホスト名の下にあるタイムスタンプをクリックします。



6. **Actions** リストから、以下の詳細に基づいて適切なアクションを選択します。



注記

テーブルの Results コラムから各テストの結果を表示することができます。

- 検証のためにテストログファイルを提出するには、**submit** を選択します。テストログファイルを閉じるには、**close** を選択します。
- 別の Red Hat Certification サーバーにテストログファイルを保存するには、**save** を選択します。save アクションはテストログファイルを (.xml.gz 形式で) Red Hat Certification アプリケーションがインストールしたリモートサーバーに送信します。別の Red Hat Certification サーバーにテストログファイルを保存する場合は、同一サーバーからテストログファイルを提出する必要があります。
- テストログファイルを (.xml.gz 形式で) ダウンロードするには、**download** を選択します。
- サーバーからテストログファイルを削除するには、**delete** を選択します。

submit オプションでは、統合されたテストログ/テスト結果のファイルが Red Hat 認定サーバーにレビューのために提出されます。

4.4.2. Red Hat Certification CLI を使用したテストログの表示およびレビュー用にテストログを提出

Red Hat Certification CLI を使用してテストログを提出するには、image-under-test で **# rhcert-cli submit** コマンドを実行します。

Red Hat Catalog Username および **Password** に、認定向けに有効にした Red Hat アカウントの認証情報を入力します。認定リクエストが正常に作成されると、**Certification ID** が生成されます。認定リクエストの ID を **Certification ID** ダイアログボックスに入力します。



注記

製品の Certification ID は、**Details** タブの certification_id という行で確認できます。

rhcert-cli submit コマンドは、Red Hat サービスに接続できるネットワークがイメージにある場合のみ実行できます。このコマンドは、ホスト/イメージ上の最新のタイムスタンプが付けられたテストログをレビュー目的で Red Hat 認定サービスに提出します。テストログファイルのレビューは、Red Hat 認定サービスと Red Hat Review チームが実施します。認定の結果は、Red Hat Certification web ユーザーインターフェースに表示されます。

image-under-test にインターネットアクセスがない場合は、以下のステップを実行してテストログファイルを提出します。

1. **rhcert-cli --save** コマンドを使用して、結果をファイルに保存します。そのファイルを USB にコピーします。
2. USB を LTS に接続します。
3. コピーしたファイルをアップロードするには、Certification ページの **Testing** タブにある **Upload Results File** ボタンをクリックします。
4. テストの結果を提出するには、タイムスタンプリンクをクリックします。**Progress** タブで Submit ボタンをクリックします。

結果が正しく提出されると、**Testing** タブの認定状態が **Submitted** に変わります。

アップロードしたファイルは Certification ページの **Testing** タブに表示され、**Certification ID** と **Program** に関連付けされます。



注記

アップロードしたファイルの名前と元のファイルの名前が同じ場合、元のファイルはアップロードしたファイルに置き換えられます。

4.5. 認定のレビューおよびポスティング

認定テスト実行後に提出されたテストログファイルは、Red Hat 認定サービスとレビューチームが検証します。レビューチームは、Red Hat Certification web ユーザーインターフェースの **Dialog** タブを使用して、パートナーと連絡を取り、特定の結果を伝えたり、追加情報を取得する場合があります。

場合によっては、テストの再実行が必要になることもあります。ただし、再実行のログは既存の認定リクエストを使用して提出することができます。最終的な認定結果は、Red Hat Certification web ユーザーインターフェースに表示されます。認定結果を表示するには、Red Hat Certification web ユーザーインターフェースの **Show In Progress Certifications** ボタンにチェックを入れます。

認定が成功すると、認定製品は [Red Hat Certified Cloud Providers ページ](#) に記載されます。

第5章 再認定ワークフロー

5.1. 再認定

パートナー様には、イメージに含まれる Red Hat Enterprise Linux のメジャーリリースごとにクラウドアプリケーションのイメージを再認定していただく必要があります。また、マイナーリリースでもイメージの再認定が推奨されます。

イメージを再認定するには、以下のステップを実行します。

1. 「[認定リクエストの作成](#)」。再認定のために新規の認定リクエストを作成することが必須となります。
2. 認定テストを実行し、本ガイド記載の残りのワークフローを進めます。

第6章 詳細情報

6.1. 参考資料

Red Hat 認定クラウドおよびサービスプロバイダープログラム、またはRed Hat 認定クラウドおよびサービスプロバイダー認定に関する詳細情報は、以下のドキュメント/ページを参照してください。

- [Red Hat Connect for Business Partners](#)
- [Red Hat 認定クラウドおよびサービスプロバイダー認定ポリシーガイド](#)
- [Red Hat 認定クラウドおよびサービスプロバイダー認定ワークフローガイド](#)